2022年度ユース審判員派遣 in 東北４種交流大会

（一社）青森県サッカー協会審判委員会

1.　大会名　第 50 回東北地区サッカースポーツ少年団交流大会
2.　期　日　2022年７月17 日(日)～７月18 日(月)
3.　会　場　五戸町ひばり野公園サッカー場
4.　宿　舎　ひばり野スポーツ交流センター　　三戸郡五戸町大字豊間内字地蔵平 1-407
5.　参加者

ユース審判員

- 関川　伽音　　（サッカー3級）
- 向中野　美虹　（サッカー3級）
- 菩提寺　俊甫　（サッカー3級）
- 松橋　我空　　（サッカー3級）
- 橘　聖蘭　　（サッカー3級）

※　他、東北6県から1名ずつ参加

審判インストラクター

- ◆　石田　明(県審判委員会レフェリーアカデミーマスター)
- ◆　石鉢　学(県審判委員会強化･指導育成部ユース担当)
- ◆　袴田　健(県審判委員会強化･指導育成部ユース部長)

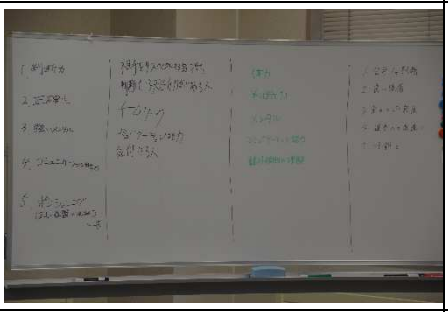
6.　競技方法(抜粋)

- 競技規則は(公財)日本サッカー協会「8人制競技規則」による。
- 試合時間は40分(ハーフタイムのインターバルは５分)。
- 試合時間に勝敗が決しない場合、1次ラウンドにおいては引き分けとする。2次ラウンドにおいてはPK方式により次回戦への進出チームを決定する。ただし、優勝決定戦は10分の延長戦を行い、勝敗が決しない場合はPK方式により優勝チームを決定する。
- 交代要員は、自由な交代を適用する(チーム構成は選手16名以内、引率指導者3名以内)。

7．タイムスケジュール

<table>
<tr><th></th><th>7月１7日</th><th>7月１8日</th></tr>
<tr><td>8</td><td>宿舎ロビーに集合、会場へ移動
会場設営、ピッチインスペクション</td><td>宿舎ロビーに集合、会場へ移動
会場設営、ピッチインスペクション、笛の拭き方</td></tr>
<tr><td>9</td><td>開講式</td><td rowspan="4">実技研修
順位トーナメント
１２試合（２０分ハーフ）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">10</td><td rowspan="4">実技研修
予選リーグ１２試合（２０分ハーフ）</td></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td>14</td></tr>
<tr><td>15</td><td>閉会式・閉講式</td></tr>
<tr><td>16</td><td rowspan="3">座学研修
・審判員の資質
・競技規則テスト</td><td></td></tr>
<tr><td>17</td><td></td></tr>
<tr><td>18</td><td></td></tr>
</table>

8.　会場の様子



9.　参加者レポート

- 関川 伽音（サッカー3級ユース審判員）

まず、今回の東北ユース研修会を設立して頂き、誠に感謝申し上げます。コロナ禍でこのような実技の研修会はあまり無かったので、とても新鮮でした。毎試合新たな課題を見つけて吸収し、また、他のユース審判員との交流の場にもなったので、とても充実した 2 日間だったと実感しております。

1日目は、自分的にあまり良くないレフェリングでした。選手とのコミュニケーションが上手く取れず、荒れた試合となってしまいました。また、選手監督に沢山言われて落ち込んでしまい、メンタルの弱さが出た試合でした。

2日目の1試合目は終盤直前までは良好でした。アドバンテージをかけることが出来ました。笑顔で試合を進めることで選手達ともコミュニケーションが取りやすくなり、両チームとも落ち着きのある白熱したゲーム展開となりました。ですが、大きなミスがありました。オフサイドの選手の確認を補助審判員とする為に目を切った時にファウル、SPA がありました。私は目を切っていてその状況を一瞬しか見れていなかった為、イエローカードだと分かっておきながらそのカード対象の選手を見逃してしまったのです。補助審判員とも話し合いましたが結局分からず、そのまま直接フリーキックで再開しました。相手チームには本当に申し訳ない事をしたと思いました。これの改善点は補助審判員と打ち合わせの時点で、オフサイドがあって得点になってしまった時にシークレットを確認するようにすれば良いと考えました。そうすればゴール前の事象を見逃さずに済むと思いました。この大きな失敗を重く受け止めて今後に繋げていけるよう、このような失敗を今後一切しないように頑張ります。

そして決勝。初めはとても緊張していましたが、普段通りのレフェリングが出来ました。決勝も選手とコミュニケーションを取る事を大事にして、終始笑顔でゲームを進めていきました。選手達は白熱しながらも楽しそうにサッカーをしてくれて感動しました。また試合は PK 方式までもつれたのでとても緊張しましたが、選手達は最後に納得した表情で「ありがとうございました」と言ってくれたので、とても良いゲームだったと心から感じています。

今回2日間を通じて多くの経験を積み、沢山学ぶことが出来ました。また、他のユース審判員やインストラクタ

ーとお話することで色々な考え方を知れたし、多くのことを吸収できとても感謝しております。今後私は 2 級、女子1級を目指す身として「審判は敵でなくプレーヤーと試合を一緒に作っていき、それが1つのチームとなって試合を成立する」ということを大事にしていきたいです。だから何度も言いますが、選手とのコミュニケーションを1番大事にしたレフェリングをしたいと思ってます。その為に、選手の気持ちをしっかり汲み取れる観察力やマネジメント力をもっと身につけます。また、選手に納得して貰えるようなレフェリングをするために、競技規則の深い理解や体力面もレベルアップしていきます。育成してくださる皆様のご期待に添えるように日々精進して参ります。これからもよろしくお願い致します。

- 向中野 美虹（サッカー3級ユース審判員）

今回参加させていただいて学ぶことが多く、成長できたように感じます。各県ユース審判員の審判を見て、動き方やマネジメントのやり方などとても勉強になりました。また自分の未熟なところを見直すいい機会にもなりました。私は笛の音が壊滅的に悪いことを改めて感じたので、笛をたくさん吹くことと腹式呼吸を意識したいです。また、マネジメントもうまくできなかったので、しっかりと聞こえる声で伝える、繰り返しさせないようにするなど自分なりに試してみようと思いました。1日目は初めてイエローカードを出しました。カードを出さなければならない状況にしたのは自分なので、これからは未然に防げるようにしていきたいです。

インストラクターの方々や他県のユース審判員とたくさん関わることができて良かったです。もっと成長した姿を見せれるように競技規則をしっかり理解し、選手がやりやすいようにサポートできるよう頑張ります。

- 菩提寺 俊甫（サッカー3級ユース審判員）

今回は補助審判員だけの形になったが、他県の色々な人の審判を見て学ぶことがたくさんあった。また、補助審判員として主審を助け、手伝うという役割をしっかり果たせたので、次はもっと良くなるように頑張りたい。

これからたくさん審判をやっていく中で、前の反省を思い出して試合に臨むようにして、良い部分を出せるような審判を心がけたい。

- 松橋 我空（サッカー3級ユース審判員）

東北 4 種交流大会に参加させていただきありがとうございました。今回私は大会の補助員として参加しました。他県から参加したユース審判員の方と交流したり、記録係をしながら審判の動き方など学びました。

今回の大会で学んだことは、競技規則をしっかり理解した上で審判に望むということです。審判員がファウルを未然に防ぐことで、安全に試合が出来るのだと改めて再確認することが出来ました。また、思いがけず補助審判員を担当させて頂くなかで、飲水タイムのときにボトルを直接手で渡さないなど、細かいルールをしっかり把握できていなかったので、そこも改めて気づくことができて、とても勉強になりました。

審判員は選手が円滑に試合を進められるためにいるのだと私は思います。だから、しっかり競技規則を理解した上でよい審判ができるように頑張り、みんなから頼られる審判員になりたいと思います。今回は本当にありがとうございました。

- 橘 聖蘭（サッカー3級ユース審判員）

今回は補助員として参加させていただきましたが、他の審判員の審判を見て学ぶことが多々ありました。私はまだまだ審判としての経験が浅いですし未熟なので、他の方々の審判を見て学ぶことができ、本当に良かったです。座学講習では知らなかったことや分からなかったことが分かって、とてもいい経験をさせていただきました。選手の皆さんが気持ちよくプレーできるように、これからもフェアで堂々と審判をしていきたいです。今後も審判の方々のお力になれるよう頑張っていきますので、ご指導よろしくお願い致します。